

2018年4月13日 発行

公益社団法人
福井県理学療法士会
News Letter
No. 183

発行人：福井県理学療法士会
〒910-0855
福井市西方1-2-11 嶋田病院
会長：四谷 昌嗣
ニュース編集部：辻 大樹
会員数：919名
施設数：163施設
(平成29年5月31日現在)

人材育成とは・・・

嶋田病院 高田真弓

早いもので今年も四分の一が終わってしまいました。今年は30数年ぶりの豪雪で、この雪は本当に溶けるのだろうか？と思いましたが、あっという間に溶け例年通り暖かな日がやってきてホッとしています。

ところで、4月から新入職員が入社してきます。毎年この時期になると新人教育や人材育成について頭を悩ませます。昨年はどうだったでしょうか？計画通りに進んだでしょうか？・・・と。

今年2月に協会の中央研修会に参加させていただき、そこでのテーマが「教育」だったのですが、講師の先生の施設独自で作成されている教育ツールやOJTやOff-JT、SD（自己啓発）などを取り入れPDCAサイクルを活用していく方法などが紹介されました。当院でも取り入れながら行っていますが、なかなかうまくいきません。みなさんの施設はどうでしょうか？

そもそも人材育成とは・・・

近年、経済産業省が「社会人基礎力」と呼ばれる「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を提唱しています。社会人基礎力とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力と12の能力要素（主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）から構成されており、企業や若者を取り巻く環境変化により、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが望まれているようで、企業の約9割はこの「社会人基礎力」を重視しているようです。確かに、12の要素を確認してみると各企業が重視していることは納得してしまいます。これまでの「階層」ごとのプランニングだけではうまくいかなくなってきたこともでてきています。時代や環境の変化とともに人材育成というものも変化しており、今にあった方法で進めていかなければならないように感じます。

「社会人基礎力」の12の要素についても自分自身すべてができているわけではありませんし、一人一人の強みや弱みもことなります。まずは強みとなる要素を活かし、弱い部分は日々向上できるように意識させていくために、より個人にフォーカスし、一人一人の特性や成長プロセスに向き合っていくことが必要になってくるように感じています。



福井県理学療法士会

2018年4月13日

施設紹介

医療法人 地水火風
たなか整形外科・眼科

当院は1999年5月に開院し、来年で20周年を迎えます。社南小学校の向かい（福井市種池）に位置しており、骨折やスポーツ障害、慢性疼痛などの整形疾患、リハビリテーション、眼科、メディカルフィットネスを完備しており幅広い層の患者様が日々来院されています。

リハビリテーション科は理学療法士6名、受付・物理療法補助1名が在籍しています。



<特色>

①福井国体・全国障がい者スポーツ大会に携わっています

アスレティックトレーナー3名、中級障がい者スポーツ指導員3名、県認定APT1名の有資格者が活動しています。

②腰部減圧治療器プロテック

当院物理療法では、急性腰痛に対しプロ野球選手も利用しているプロテックを取り入れています。

上半身をしっかりかかえ上げ、腰部から上半身の重さを取り除いた（椎間板内圧を下げた）状態にします。



腰部の治療部位に合わせて脚の高さを変化させて治療を行え、椎間板内圧を下げた状態で下肢部の運動療法を可能にします。

プロテック

（出典：ウェルコム株式会社）

③ロコモ教室

社南公民館をお借りし、転倒予防教室を開催しています（今年で5年目）。ロコモ度をチェックする運動項目（台からの立ち上がり・2ステップテスト 他）と毎年ごとにテーマ（足部変形・枕の高さ・認知機能と有酸素運動など）を決めて実施しています。

2018年4月13日

華みずき

同法人が運営するデイケア華みずきは、平成27年4月にオープンした通所リハビリテーション施設です。たなか整形外科・眼科に併設されている「サービス付き高齢者向け住宅 華みずき」の1階にあり、現在、理学療法士2～3名、介護職員5～6名で業務にあたっています。PTとのリハビリ、各種マシンを用いた自身体操、レッドコードを用いた体操や集団での転倒予防体操などを行っており、利用者様には基本的によく体を動かしてもらっています。また、四季折々の行事や誕生日会、外出行事など利用者の皆様に楽しんで頂けるような空間を提供しています。



2018年4月13日

Professional ~Style of works~

Profile

- ・氏名：松浦 佑樹
- ・所属先：中瀬整形外科医院
- ・修得資格：認定理学療法士（運動器）
- ・出身校：福井医療短期大学
- ・その他の資格：なし



松浦先生は後列向かって1番左

Questions

Q1 この資格を取得しようと思った理由を教えてください。

いつも厳しくご指導頂いている先輩からの勧めでこの資格に興味を持ち、自分の専門性を高めるためにも取得しようと思いました。

Q2 この資格に関わる魅力を教えてください。

今のところ特に感じていません。これから見つけていきたいと思います。

Q3 この資格を取得して良かったと思うことを教えてください。

「認定」と名を冠する資格を取得したことで、もっと勉強して専門性を高めないと考えたことです。

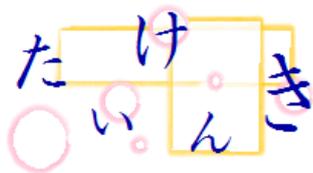
Q4 この資格を取得するために大変だった事などを教えてください。

ポイント取得のために研修会に参加しようにも県外で行われていることが多かったため、家庭と仕事との両立が大変でした。

Q5 今後のセラピスト活動に対する計画や目標、希望などを教えてください。

胸を張って認定理学療法士と名乗れるように自己研鑽を積んでいくことや、最近さぼりがちだった臨床研究もまた再開していけたらなと考えています。

2018年4月13日



「第10回国際交流セミナーに参加して」

福井大学医学部附属病院 リハビリテーション部
理学療法士 庄司一希 前友理

今回の第10回国際交流セミナーでは、ロペス トゥルヒーヨ パブロ ホセ先生から「こんな国ですニカラグア！」と題してニカラグアの紹介を、そして信頼で世界をつなぐために青年海外協力隊としてニカラグアで活動された3年間の体験を山田真希先生に話して頂きました。

まず、パブロ先生のニカラグアの紹介では、文化や習慣、生活の様子などを、写真を交え丁寧に教えていただきました。パブロ先生は何と、現地で山田先生との結婚を決意し、遠く離れた日本へ移住し、現在、福井県内で唯一のニカラグア人として生活をしており、その情熱と行動力には驚きを隠せませんでした。また、来日約1年と短い期間であるにも関わらず、慣れない日本語を練習し、ニカラグアの紹介を全て日本語でくださったことに感銘を受けました。



山田先生は、高校時代から海外で活動しようと大志を抱き続け、理学療法士となり、その夢を実現されたそうです。漠然と考えていた海外への興味を実際の行動に移し、理学療法士として青年海外協力隊の一員として活躍してこられたその行動力に衝撃を受けました。

活動中は、片道3時間かけて徒歩で訪問リハビリを行うといった、日本で生活する私たちには想像もできない苦労があったそうですが、スライドに映し出される先生や現地の患者の表情には、いつも笑顔が見られ、山田先生の活動に多くの方が救われていたのだなと感じました。

活動前は「自分が何かをしてあげる」という考えだったが、日々の経験の中で「現地の人に提案する、一緒に何かを作り上げる」といった現地の方の今後を見据えた行動へと変化していった話を聞いて、現在自分の行っている日々の臨床に活かしていけるのではと感じました。人へ援助を与えるだけでなく、その人が自立するための一助になるのが理学療法士の仕事なのだ改めて思いました。福井県理学療法士会の中でも、青年海外協力隊をはじめ、海外で理学療法士として活躍している方がたくさんいらっしゃるようです。また、これから活動したいと考えている方もいらっしゃると思います。今回の2人の講演を聞いて私たち自身も、幅広い視野で患者と接し、今の自分にできる最善の理学療法を患者さんに提供していきたいです。



2018年4月13日

奥越・坂井ブロック合同ミニ学会

至捷会 木村病院 理学療法士 佐藤加奈

今回の合同ミニ学会を聞かせていただいて、自分の治療を見直すいい機会になった。

高齢になればなるほど身体機能低下が著しくなり、既往歴もいくつもある傾向にある。例えば、入院のきっかけが骨折だとしても、患者さんの背景には目に見えないものが沢山あるため、一つの現象の原因が入院のきっかけである骨折からだという概念にとらわれてはいけなさと再認識できた。特に整形疾患と中枢系疾患の両方を持っている方は何が原因であるかわからない部分があると思う。私はどうしても経験年数が2年と浅いうえに視野



が狭くなりがちである。視野を広げるためには、PTの基本であり誰もが聞いたことのある問診・視診・触診が大事であり、様々な角度から評価を行いアプローチをしていかなければいけないと思った。

私が現在担当している患者さんで杖歩行見守りの方がいる。見守りということは出来る部分もあるということであるため、どの程度の行動を許可すればよいか判断しにくいと思う。バランス検査の数値は高得点であっても、「なんか危ない」「たぶん転倒するなあ」と感じている。このような患者さんを治療する機会が多いのではないかと思う。発表を行った先生の中にも歩行見守りの症例がおられた。その症例は加えて認知機能低下、リハビリの意欲低下もあるということである。さらには転倒リスクが高い状態であった。このような方に対しての自宅でのベッドの配置や治療方法などとても良い勉強になった。転倒のリスクを減らすためには、患者さんの行動をただ単に制限するのではなく、何の目的があって行動しているのかということをしかり理解しないといけないのではないかと思った。



トイレ動作見守り～自立であるが、トイレでの排泄を拒否する患者さんを私も経験したことがある。今考えてみてもなぜ拒否していたのかははっきりした理由は分からない。今回の発表を聞いて、拒否する理由がトイレだけのために起きることが苦痛だったり、トイレ動作に自信がないだったり理由は様々あり、精神的な面も関わっている人が多いのではないかと思った。また、トイレでの排泄拒否を起さる拒否の理由としているのではないかという意見をおっしゃる先生もおられた。私にはそのような発想がなかったため、違う視点からの意見であり、参考になった。

2018年4月13日

中瀬整形外科医院 リハビリテーション科 米岡秀規

今回奥越・坂井ブロック合同ミニ学会での発表を経験し多くのことを学びました。まず、問診等からニードを設定し、動作観察から問題点を予測し、それに対し検査・測定を行った結果をもとに統合と解釈を行う理学療法評価の一連の流れの大切さを再認識することが出来ました。また、多くの文献を用いて自分の考えを根拠を持って述べ、相手に伝える重要性を学びました。

発表練習では、多くの先輩方から意見や発表に至るまで指導を頂き、本番ではスムーズに発表を行うことが出来ました。また、本番では他院の先生方から多くの質問・意見等を頂き、自分の考えていなかった問題点や手技について知ったことで、より様々な角度から患者様を診ていかなければならないと感じました。

今回、担当させていただいた症例様の最終評価時の実用性は、初期評価と比べて改善が見られました。しかし、初期評価時から残っていた問題点が最終評価時に残存していました。

最後に、担当症例様、ありがとうございました。入職して間もない頃から担当させて頂きましたが、大変貴重な経験をさせて頂きました。今回の経験を通して、多くのことを学びました。その反面反省すべき点・今後の課題が多く発見できました。このことを糧にし、今後の理学療法の糧に頑張ります。



【編集後記】

4月になり、新入職員が入社してきました。新入職員を見ると、自分の入社当手を思い出します。

「あのころは何もできなかったなあ」と思うのですが、よくよく考えると、今も自分に何ができるのかよく分かりません笑

とりあえず、今年こそは成長してやるぞーという意気込みだけがわいてくる今日この頃です。

賛助会員

ミナト医科学株式会社 金沢営業所 石川県金沢市金市町二 18 番 1	ハシノメディカル 小浜市千種 1-10-18
ツールケア 福井県福井市加茂河原 2 丁目 13-32-2B	有限会社 奥義肢製作所 福井県福井市二の宮 2 丁目
株式会社ミタス 福井市問屋町 4 丁目 901 番地	
順不同	